国見っ子

令和３年度　　第４号
国見町立国見小学校だより
令和３年　　６月　１日
発行者　校長　本多　康弘

家読のススメ

国見町では，家読（うちどく）を進めています。リーフレットを読み進めていくと，このような説明があります。

> 「家読」とは，「家庭読書」の略語で，家庭で本を読むこと目的とし，学校・家庭・地域それぞれの場面において子どもたちが本にふれあうことにより，心豊かで健全な子どもの育成を願った取組です。

学校で，いわゆる「朝の読書活動」が始まって３０年近くになります。保護者の皆様の中には，授業前の短い時間に読書をしていた思い出のある方も多いのではないでしょうか。

情報社会といわれるようになりました。学校でも，ＧＩＧＡスクール構想の下，一人１台のタブレットによる授業の準備が進められています。本校でも，授業にタブレットを活用した授業が近々始まります。昨今のアンケート調査等から，本校の児童の多くが何らかの形で情報端末を使用している実態が明らかになっています。子どもたちにとっても，こうした情報端末は身近な存在になっています。

このように，電子ゲームやインターネット，携帯電話からスマホへと子どもたちを取り巻くメディア環境は，著しく変化しました。便利になる一方で，ＳＮＳによるトラブル，犯罪に巻き込まれるケースの増加，さらには，メディア漬けになった子どもたちの心が不安定な状態になったり，家族との会話が少なくなったりという現代の社会的問題を，読書という方法で和やかな家庭環境をつくり，家族のコミュニケーションを図ることで「家族の絆」を深めることを進めるのが，この「家読」のねらいの一つです。

子どもと同じ本を読んだり，保護者の方からお子さんに本を紹介したりしながら，読書を通して「読書のよさ」に気づいたり，楽しんだりすることができれば，「家読」は成功だと思います。

感染症対策をもう一度

先週金曜日，福島県の県対策本部会議において，感染状況が改善したものと判断され，「福島県新型コロナウイルス感染症非常事態宣言」が解除されました。このことにより，「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準における対応が“レベル２”から“レベル１”へ移行することになりました。

しかしながら，これまでの感染症対策をすべて緩和するものでありません。引き続き可能な限り感染リスクを下げるよう指導していきたいと思います。「できること」を模索しながらの教育活動ですが，今後の感染症拡大の状況によっては，学校行事の延期や中止，学習活動の制限などが十分に予想されます。子どもたちの学びを継続させていくためにも，改めて感染症対策について「手洗いや消毒，マスク，常時換気，密を避ける」指導をして参ります。お子さんが発熱や体調が優れない場合には，無理に登校させず早めの医療機関の受診をお願いいたします。また，保護者の方におかれましても，感染リスクが高まる５つの場面を十分考慮された行動をお願いいたします。

加えて，最近子どものケガが非常に多くなっています。様々な要因が考えられますが，身の回りの危険やケガ防止について繰り返し安全指導をしていきたいと思います。あわせて，ご家庭においてもご指導をお願いします。ケガの程度にもよりますが，学校では治療する事ができませんので医療機関の受診をお願いすることになります。体調不良についても，保健室利用は原則１時間としております。体調復帰が見込めない場合等には，早退を勧めますので，こちらもご協力をお願いいたします。

大変お世話になりました～渡辺愛さん～
よろしくおねがいします～氏家早那さん(特別教育支援員)
神保正人さん(ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾄｽﾀｯﾌ)～

４月から特別支援教育支援員として勤務していただいた渡辺愛さんが，この度の町人事異動により，県北中勤務となりました。短い期間でしたが，支援学級を中心に多くの子どもたちへの支援をいただきました。大変お世話になりました。

また，このことにより新たに特別支援教育支援員として，氏家早那さんが，６月１日付けで本校勤務となりました。続いて，スクールサポートスタッフとして，神保正人さんが感染症対策業務，校務補助などの業務を担当することになりました。どうぞもよろしくお願いします。